

# 恵子は帰ってくると信じています



北朝鮮拉致被害者・有本恵子さんの両親  
有本明弘・嘉代子ご夫妻

1970年頃から80年頃にかけて多発した北朝鮮による日本人拉致事件。兵庫県民にも、政府が認定した拉致被害者が二人います。その一人、有本恵子さんのご両親の有本明弘さんと嘉代子さんに、拉致被害者の家族としての思いをお聞きしました。

—これまでの政府の取り組みについては、どう感じていますか。

**明弘** 拉致は20年前に分かっていた問題。それなのに、政府もマスコミも真剣に取り組んでくれなかった。「北への疑惑」に止まっていた。それで、家族会ができる前から、「何とかしてほしい」と妻と二人で訴えてきたんやけど、街頭で署名を求めても、ほとんどしてもらえなかった。平成14年に小泉首相が北朝鮮へ行って、やっと大きく取り上げられるようになった。

—そもそも恵子さんは、なぜヨーロッパへ行っていたのですか。



内閣官房が初めて制作した拉致問題の広報ポスター

**嘉代子** 恵子は高校に進学した頃から、英語に興味を持ち、神戸市外国語大学に進学しました。大学卒業の直前になって、「イギリスへ語学留学に行きたい」と言い出したんです。寝耳に水の話で、夫と反対したんですけど、押し切られてしまいました。あの時、なんで「絶対にだめ」と頑張らへんかったんか…。

—その後、どういう経緯で消息が途絶えたのですか。

**嘉代子** 半年の約束やったのに、半年経って、「もう半年いたい」という手紙がきたんです。帰ってくるように返事を書いたけど、あきませんでした。

翌年の6月になって、「8月9日に帰国する」との絵ハガキが届きました。でも、その当日になって着いた「仕事が見つかり、帰国が遅れる」という電報と、しばらく後に届いた手紙を最後に、連絡がつかなくなったんです。

後から分かったんですが、北朝鮮にいた「よど号」ハイジャック犯の一人の妻だった八尾恵さんに、「市場調査の仕事をしてほしい」と声をかけられ、「何か仕事をしたい」と思っていた恵子が、その民に引っ掛かってしまったんです。

—平成14年に、恵子さんが亡くなったと伝えられた時はどう思いましたか。

**嘉代子** その日、私は「恵子は殺された」と思い込みました。

でも、その後の外務省の調査団が受け取った死亡確認書は、信用できないものでした。つじつまが合わへんところが一杯あるのに、北朝鮮が言うとおりに外務省が受け取ってしまったんです。それで「絶対に恵子たちは生きている」と信じるようになりました。

—今の心境はいかがですか。

**明弘** 戦後60年間で、日本はこういう事なかれ主義の国になってしまった。私たち家族会はこの問題を機に、はっきりと外国に物が言えるように日本を変えるチャンスだ、という気概で頑張っているんです。

**嘉代子** 恵子の場合、帰国した5人の被害者の方と違い、「騙されて行った」のは確かです。でもそういうケースは、特定失踪者に何人もいます。だから一人でも多くの方がこの問題を知って、理解して欲しい。それが私たちの心の支えになるんです。

(財)兵庫県人権啓発協会発行「人権ジャーナル きずな」平成18年8月号より

## 兵庫県民の拉致被害者

政府が認定している北朝鮮拉致被害者は17名で、次の2名が兵庫県民の方々です。この他にも、拉致の疑いが濃厚な特定失踪者が全国に多数おられます。

北朝鮮拉致問題については、兵庫県は国への要望活動とともに、「ブルーリボン運動」「拉致被害者・家族義援金募集」への支援に取り組んでいます。



田中 実さん  
(神戸市東灘区/  
昭和24年生まれ/  
当時28歳)

1978年8月、ラーメン店員だった田中さんは、店主の甘言により、成田空港からオーストリアのウィーンに向けて出国した後、消息不明となっています。北朝鮮側は、拉致の事実を認めていません。



有本恵子さん  
(神戸市長田区/  
昭和35年生まれ/  
当時23歳)

1983年7月頃、語学留学で欧州滞在中だった有本さんは、デンマークのコペンハーゲンからの手紙を最後に、消息不明となっています。北朝鮮側は拉致の事実を認めましたが、1988年11月に拉致被害者の石岡亨さんと一緒に石炭ガス中毒事故で亡くなったとしているものの、これを裏づける資料等の提供は行われていません。

12月10日から16日までは北朝鮮人権侵害問題啓発週間です。  
県民の皆さんも、拉致問題等、北朝鮮当局による人権侵害問題への理解を深めましょう。

